

水源禅師法話集 23

(2013年10月11日 忍野合宿)

2014年11月20日

一乗会



水源禅師のクティの湖にいる水鳥

目次

| | |
|---------------------------|----|
| 水源禅師法話 | 1 |
| サティパッターナ（四念処）..... | 1 |
| 無明、執着、因縁、菩薩..... | 2 |
| アインシュタインの理論が崩れる..... | 2 |
| 宇宙の因縁..... | 4 |
| 善と悪..... | 4 |
| 妙好人の才市同行..... | 5 |
| 七覚支..... | 7 |
| 自分に一番しっくりくる坐り方..... | 8 |
| 心と体を一体化させる..... | 10 |
| 意識と無意識の間..... | 10 |
| 諸宗教の原点を検証する..... | 11 |
| 無明なる現代の経済システム..... | 12 |
| 質疑応答 | 14 |
| 常識は本当の知識ではない..... | 14 |
| 超古代史..... | 17 |
| アメリカの実態..... | 19 |
| 宗教者の使命..... | 20 |
| 無明から光明へ—本当のことを本当に見る—..... | 21 |
| 政治家・宗教家の責務..... | 22 |

水源禪師法話

サティパッターナ（四念処）

これは私の体験からの話で、ただ参考にしていただいて、それぞれ違う方法があると思うのです。いろんな文献を読んだり、体験談を読んできましたら、これといった確定した方法はないのですが、ただ基本はやはりお釈迦様が言われた「サティパッターナ」「四念処」というのが、基本になっているみたいです。そういうことで、やはり「お釈迦様はすごいな」と思います。ただ、それが遠い2500年前からの言い伝えで、世界に散らばってしまったのでいろいろなバリエーションが出たみたいですが、やはりこの四つの方法のバリエーションで全部になっているみたいです。一つは体を使う「カーヤヌパサナー」（身随観）。今、この「カーヤヌパサナー」が世界的に広められたのが、マハンさんという立派なお坊さんがミャンマーの方で、第2回世界仏教大会のとき、その学説と彼自身のすごい行力によって感化されて、そういうことで広まったみたいです。

私の場合は達磨大師様の流れを汲（く）んで、六祖大師（慧能大師）、曹溪宗の流れのうえで、私の印幻先生から手ほどきを受けて、それから中にはソンサン・スニムという、この方は坐ったら空中に浮くのですよ！本当に。というふうな、すごい先生方から慈悲の力をもらいましてね、実際そばにおったら、慈悲を発射されてしまうのですね、サーッと。慈悲の固まりです、そういう方々は。若いときですから、そういう方々と問答してみたりとか、非常にかわいがられまして、在家でずっと私は達磨大師様の方法で『般若心経』を心で読むようにしていました。特に、日本では弘法大師様の心がよく私の心に入ってきてまして、なぜか。そういう方法で、日本に生まれたことによって、すごい仏力を受けたようです。これはまた不思議な話がいっぱいあるのです。「チッタヌパサナー」（心随観）といいます。

ゴエンカさんがお亡くなりになったそうですが、これも「ヴェーダヌパサナー」（受随観）といって、すごい方法で、この行法はレディセヤドーといって、1846年生まれの方だと思います。この方が全ての行法を持っていたのですが、非常に難しいのですね。ある程度までいったら、それ以上はどうしても「ダンマヌパサナー」（法随観）という四界分別とか、ルーパ（色）の世界とか、それを持たなければ通過できないようになっていて、ここがネックになっています。ただし、私が一人教えた生徒で、ゴエンカさんの「ヴェーダヌパサナー」と「ダンマヌパサナー」を合わせたときに、その壁を乗り越えた方が一人おります。

「ダンマヌパサナー」というのは、私はモーラミヤインのパオでウ・レヴァタ先生、ウ・レヴァタバンティという有名な方です。この方、今、直接はもう人に教えていません、体がちょっと悪いので。ちょっとその前にパオセヤドーからも面談して、いろいろ少し教えてもらいまして、今回もパオセヤドーといろいろ談義しまして「【水源禪師】正式なパオの方式は非常に難しいので、私は直接ヴィパッサナー（観）を修行させ、チッタヌパサナーで教えて

います」ということで「【パオセヤドー】それでよろしいです」ということ。というのは正式な方法となれば3時間はどうしても必要なのです。というのは、四界分別のときには(1禅ぶっ続けで)5時間、6時間、坐って分析していきますから、ヴィパッサナーで。究極の世界。というのは、お釈迦様がおっしゃいました。

無明、執着、因縁、菩薩

「無明」というのは「一般のこの私たちの世界の知識すべてである」と。奥さん、旦那さん、子ども、お父さん。究極的には「物質の世界」と「心の世界」しかない。その「物質の世界」というのは28の物質と81の心の作用によるものであると。ということをお釈迦様はおっしゃっています。これをもっと簡単に短くすればこうです。18の物質の世界。地、水、風、火。それから、そこから発生する目とか舌とか、いろんなものが組み合わさって、これが18に分類されて、それから心の作用が6つの心の空間がくみ合わさって24。

これが決定的な因縁をつくり始めます。因縁の力がどこから起こるかと言えば結局「無明」。さっき言った「一般常識の考え」と、それから「これは、私のものだ!」という。誰にもあげられないという「渴愛」と訳されておりますけれど、実は「取りすぎる」と!

この「取りすぎる」ときに、「私は仏法のダンマを知りたい」ということを菩薩様がやるわけなのです。人に広めて。この執着心がなければ、菩薩様はとっくに涅槃に行って存在できないわけなのです。ここが非常に微妙なことなのです。そうでなければ、私たちは救われないから。この菩薩の叡智によって、次から次に生まれてきて。

現在もこの私たち目には見えませんが、いっぱい菩薩が世界におると思います。その菩薩というのは、仏法は無量にして壁がないからキリストの世界に生まれるかもしれません。マザーテレサとか。それから政治的にはネルソン・マンデラとかマハトマ・ガンディーとか。その全く関係ないような世界でありますけれど、密接に私たちはつながっているのですね。そのスーフイズム(イスラーム神秘主義)のジャラル・ウッディーン・ルーミー、何か徹底的な慈悲の世界を広めようとしたのですね。「この宇宙はまさに慈悲そのもの」で、そこから断絶されたゆえに、私たちはこうして苦しむわけです。ドウッカ(苦)。永遠にくるくるくる無常(アニッチャー)回り始めて、「私のもの」、アッタ(我)に執着するのが、私たちの世界なのです。

アインシュタインの理論が崩れる

ですから、いつの世も苦しいのです。これを悪世といいます。アナッタ(無我)ということが分からないから、私も苦しみ、戦争を起こし、リビア、シリア、アフガニスタン、イラクとか、どんどんどんどん強烈に起こっていくわけです。これで結局、「無明」。「一般常識」。「アインシュタインの理論はほとんどよいのだけれど、100%ではない」と、私が言ったことが、つい数カ月前に、アメリカで原爆をつくって日本に落したロスアラモス国立研究所で、

「どうもアインシュタインの理論は間違っている」ということが、実験によって分かり始めたみたいです。ところが、つい最近までは「そういうふうなことが絶対的である」と。

イスラームの世界で言えば、ムハンマド様は神様から直接お話ししたから、アラビア語で言っているはずだから、「全部アラビア語である」と。ところが、1972年にイエメンのモスクから715年代の最も古い経典が発見されたわけです。その経典は全てアラビア語で書かれて「現代の経典と変わらない!」と。「素晴らしいものである」ということで、ドイツに送ったわけです。ドイツでそれを見たら「これはいったん古いものが消されて、そのうえに書き換えたものである」と。そのオリジナルを見たら、そのパーチメント(革)を洗い落として。紙は1回しか使えませんけれど、動物の革は何回もそうして使えるわけです。X線で見たら、それはいろんな言葉のカクテル(混合)で作られているわけです。ギリシャ、アラメック、エジプト、シリア、アラビックとか、ペルシャ語とか、いろんな言葉が入っている。中には「ムハンマド様が生まれる100年前の経典も入っている」と。「これはちょっとダメだ!」というので、今度この経典をドイツに送った学者に、イスラームの方で大変な刑罰を与えようとしたわけです。

というふうに、私たち人間はいつもこういうふうに「常識社会、皆の共通な考えで、無明の世界に存在する」ということを、お釈迦様がおっしゃったわけなのです。だから、禅では「考えを捨てなさい!」と言うのはここであって、「捨てなさい」と言うのは、まず一般常識は横に置いておいて、それは人と話しますから会社とか、ただ「真理は自分の体を使って体得してください!」と。ということは非常に簡単なことなのです。

私が今回、もう6カ月、朝から晩まで働くのですね、新しい瞑想センターをつくるために。そしたらね、測るわけなのです、頭の中で、きっちりと。大きな木材を切ったり、組み合わせたりするのですけど。そしたらね、ちょっとやっぱり2~3ミリ違うわけです。なぜ違うかということは、後で分かるわけです。間違ってみているわけなのです。そのでっかい木材は使用できないので、とても高い材料費がつくので、心に痛みを感じます。その間違ったところをもとにしてやったら今度、正解になるわけなのです。これを「体得する」といいます。いくら頭で考えても、疲れているときは何回も同じ間違いをしてしまう。やるときは頭の中では完全なわけ。でも体を使って切断したときに違う結果が出てくるわけなのです。だから、よく坐禅では「食べる、寝る、自分でしっかりと体を通して心と一致させてください!」と。

特に私たちは文字によって理解しようとしてしまいますけれども、今は「究極的なアインシュタインの理論もどうもおかしい」となったわけ。特に水素爆弾あるでしょ、「どうもこれ違う」ということが、これもまた発見された。水が爆発して、今の福島原発よりすごいものができるかと思ったけれど、ロスアラモスでいくらエネルギーを入れてもね、水爆を爆発させるように!できなくなった。それで、どうもこの「アインシュタインの $E=mc^2$ 、これどうも違う」ということが今、分かって。

これが1700年代の論争であった、デカルトというすごい哲学者とライプニッツ、ドイツの数学者の微積分の論争が起こって、エネルギーの計算の仕方が「どうもアイザック・ニュートンが間違っていて、デカルトの方が正しいのでは?」という方向に現在、向いているわけです。だから、どこでどう、どんでんかえしするか分からないわけ。

宇宙の因縁

そこで『般若心経』のすごいところは「一切顛倒」と、ちゃんと書いてある。つまり「自分自身でしか体験できない」と。「人から聞いても、絶対に分からない」ということであるわけなのです。「因果」というのは個人個人のことだろうと思うでしょ？ 宇宙にも「因果」があるのです。これから 10 万年後には「この地球の水が蒸発して、生命体の死が訪れる」と。「その前に天界より、まず髪を乱した、ぼうぼうとした、だらしない人が泣き叫びながら、この世の終わりが来ます」と、経典に書いてある。お釈迦様が、私ではないです（笑）。「そのときには、まず太陽がもう一つ現れます」と、そして「昼も夜もありません」と。そして、そのときに「生命体が消滅するときに、この地上、亀さんとか魚とか、10 兆の他の宇宙帯に飛んでしまう」と、だから生命は永遠なのです。そして「第三の太陽が現れます。それで第六のときには、この地球が燃え上がり始め、第七の太陽で囲まれたときには、粉々になって煙のようになって、完全に消滅します」と。ということが、宇宙的な因果をお釈迦様が説いているわけなのです。

第二の太陽が現れる前に、この天からの方々が泣き叫びながら言ったことは「慈悲を一生懸命、磨いてください！」、それは当然のことなのです。この宇宙は慈悲の固まりで、慈悲でできている。「そうしたら、次は、あなた方は消滅する前に天界に生まれるでしょう。天界に生まれた後は、ブラフマン（梵天）の世界に行って、ジャーナ（禪定）に入るでしょう」ということを言っているわけ。それで、その経典は何かということで、『カラニーヤ・メッタ・スッタ』（『慈経』）ということをお話、持ってきたわけ。このことを言っているわけ。

善と悪

こういう「自分の心」と「宇宙」と「現代の生活」。こういう総合的なところを見ながら、今度は「どういうふうにして瞑想していけばよいか」ということをお話ししたいと思います。『サティパッターナ』の四つの手法の中のどれを取ってもいいのです。これといったことはないのです。「過去の因縁によって、どの方法が合うか」は、あなた方が決定してしまうから。ゆっくりやっけていながら、やる方法は、お釈迦様が言ったように「これやらないと死ぬ！というくらい、これはダメ！」と。ところが「毎日、寝そべってもダメ！」と。一番、私のよい体験は「ゆっくりと楽しみながら、できる限りそっちの方向でやっけていく」。そうしたらうまくいきます。

七つの悟りに至る条件「セブン・エンライトメント・ファクター」「7 enlightenment factor」「七覚支」(satta bojjhaṅgā) でしてくださいと、これをお釈迦様がおしゃっています。これは「弥勒菩薩が弥勒仏陀になって、この世に出てくるのを待たなくてもよい」と。「三十七仏を唱えれば、それで同じ結果になる」と。それがこの三十七菩薩行というのですか。大乘では「七覚支」という。その中が「セブン・エンライトメント・ファクター」と言って大乘にもちゃんとある。だから「どれが善い、どれが悪い」という、それはあなたたちが決定、

人生のうえで。あなたたちしか決定できないわけ。なぜかといったら「この世には、実は善いも悪いも一つもない」わけです。ただ、すべてはあなたたちの因縁によって、仏の最終段階に向かうだけのことです。ただ遅い早いがあるだけで。

だからこういったわけですね。キリスト教の教典といえば「イエス様が言ったこと」。そのイエス様はユダヤの流れを汲（く）んで、その中では「トーラ」(Torah) という聖書があるわけなのです。その聖書の一番最初の奥義、エデンの園から追放されるときに、神様がアダムに言った言葉があります。それはカトリックでは抜いてあるのです。また、イスラームの「クルアーン」(コーラン)、そこを私はまだ読んでおられませんけれど、その「クルアーン」と見比べて、カトリックの教典の「創世記」(Genesis) と、全て読んで同じであるということであれば、結局ユダヤ教の「トーラ」の一説が抜かれているはずですよ。

私がカトリックの教典と「トーラ」の教典を読んで衝撃を受けたのは、文章が抜かれているわけですよ、カトリックの方では「ただ追放された」と。ただユダヤ教の教典では神の慈悲があるから、追い出す前にアダムに言ったわけなのです。「人間とは悪しき善きを知る生き物である」と。だから「永遠の生命を与える」と。死なないということ。「リ・インカーネーション」(輪廻転生)。次から次と生まれ変わる、これ仏教では当然ですけど。

南伝のブッダゴーサが『清浄道論』で言っていることは「クサラ(善)・アクサラ(不善)、善心・不善心をいかに見極めるか」ということで、心を観ていくわけ。「何が正しいのか？何が間違った見方か？」、実はユダヤ教の「トーラ」の究極の教えと、少しも違わないわけなのです。カトリックの人は、このユダヤ教の奥義を見ることができないわけです。それをイタリアの深くカトリックを研鑽された方が、よく私にこぼしていました。ところが、私は奇跡的にユダヤの人に瞑想を教えたもので、この教典を受け取ったわけ。中を見たら私がびっくりしてしまいました。これは仏教の奥義そのものを書いてある。

妙好人¹の才市²同行

だから、私たちは「何々教」とか、いろいろ分類しているけれども、それはそれで置いておいて、瞑想するときには、できる限り空っぽにしてください。まず大事なことは、日常生活で、「セブン・エンライトメント・ファクター」(七覚支)をゆっくりと検証していきます。

¹ 特に浄土真宗の篤信の念仏者を指す語。『仏説観無量寿経』流通分に「もし念仏するものは、まさに知るべし、この人はこれ人中の分陀利華(白蓮華)なり。観世音菩薩・大勢至菩薩、その勝友となる。まさに道場に坐し諸仏の家に生ずべし」と、釈尊が念仏者を讃えたことに由来する。この「分陀利華」を釈して、善導大師(613-681)は『観経疏』散善義に「分陀利といふは、人中の好華と名づけ、また希有華と名づけ、また人中の上上華と名づけ、また人中の妙好華と名づく。この華相伝して蔡華と名づくるこれなり。もし念仏するものは、すなはちこれ人中の好人なり、人中の妙好人なり、人中の上上人なり、人中の希有人なり、人中の最勝人なり」と、念仏者を五つの誉め言葉で讃え、その中に「妙好人」の語が出ている。
² 石見の才市(1850-1932)：浄土真宗の妙好人の一人。石見国大浜村字小浜(島根県大田市温泉津町小浜)出身。他力の信心を詠んだ念仏詩を8000首以上、残している。

「どういうふうに分を見つめるのか？」と。内の心を観る。それからちょっと離れて自分を観る。それから同時に内と外を観ると。例えば「マインドフルネス」「サティ」(念) ね。それは「マインドフルネス・ブリージング」、心いっぱい、心を集中して、これもまた非常に難しいのですね。「吸う、吐く」「吸う、吐く」と、心でやってくださいというわけ。

これを完全に実行した人が、日本では才市(さいち)さん。その方の詩¹を読んだら「吸う息、吐く息(鼻ですね)、は心」、ここなのです。この人は字も書けないわけ。ただ「阿弥陀、阿弥陀」で、そこまでいったわけです。だから禅でも公案をやらせます。何か一つ偉い先生から公案をいただいて、これだけどこまでもやっていく。才市さんの公案といえば公案。だから、鈴木大拙(1870-1966)という人が、非常に感ずるものがある、学問的な理論的に解析しようと思うけど、ここは彼、説明できない。なぜかといえば、アナパナ(入出息念)をやった人間だけが、これがアナパナであると体得することができます。才市さんの「慚愧、歓喜」「歓喜、慚愧」²。これはもうこの域で「第三禅定に到達した」ということを彼は言っている。これは日本では誰も解説できない。なぜかといえば、この文献を南伝の人は知らないから。ということは、才市さんはブラフマ・ビハーラ(brahmavihāra: 四梵住)のムディター(喜)を完成させた」ということ。もはやどんなことがあっても、この地球が破滅しても何しても、完全にブラフマン(梵天)の世界に行ってしまう。阿弥陀の世界がありますから、阿弥陀に往(い)きますね、当然。だから、その人をいくら文献解析してもね、「解析した方が、西国浄土へ往けるかどうか」は全く別の話です。

というふうに、法はどんな人にも降り注ぎ、満ち満ちているわけです。特にびっくりしたのは「虚空に仏陀がいっぱいおる」³と。これはまた大乘の極意になってくる。教えなくてもそこまで観えてしまう。ヴィパッサナー(観禅)で観えるのです。南伝では、ディーパンカラ仏陀(燃燈仏)、その前の三仏(サラナンカラ仏陀<作衣仏>、メーダンカラ仏陀<作慧仏>、タンハンカラ仏陀<作欲仏>)を入れて二十八仏、仏陀が。それ以外ないと教え込まれたから、ないものだと決め付けてしまって、これがアビッチャー(無明)になって観えなくなります。それを外したら「虚空に無量の仏がある」と、ちゃんと観えます。

だから結局、みんなで決めて「そうだ」と、それはそれでいいわけ。ただ、それがどうかはインベスティゲーション(検証する)というセブンファクター(七覚支)に今度、入ってきます。自分で決定するという。結局、マインドフルネス、そしてインベスティゲーション。これを才市さんがヴィパッサナー(観禅)で観た、それを報告したわけ。ところが、インベスティゲーションというのは、日本語に直訳すると「調査する」となる、これはちょっと違うわけ。ありのままにそれを観て「そうだ！」と。そのこと。

¹ 「心は出入りの息にまかせて世を過ごすこと 出入りの息こそ南無阿弥陀仏」
(適宜、漢字を仮名、仮名を漢字に置き換えた。以下同じ)

² 「わたしゃ罪でも六字の慚愧 わたしゃ罪でも六字の歓喜 南無は慚愧で 阿弥陀は歓喜
慚愧歓喜の南無阿弥陀仏」

³ 「いいな、世界、虚空がみな仏(ほとけ) 私もそのなか、南無阿弥陀仏」
(適宜、読み仮名を()に入れて示した)

七覚支¹

だから、これは法のことを言いましたけれども、日常生活で食べるでしょ。「心で感じる」「遠くから観る」「全体的に観る」このことなのです。三方で観る。これはヴェーダナヌパサナー（受随観）の主体で、外のフィーリング、中のフィーリング、三つ一緒、このことです。これをお釈迦様がおっしゃっています。これが1番目のエンライトメントファクター、1番目は「念」(sati)。

2番目は「択法」(ちやくほう)と言いますが、「インベスティゲーション」(検証する)、「択法？何だろう？」と、だから今かみ砕いて教えております。

そして第3は「精進」ですが、「努力、努力」そうではないのです。もちろん努力するには力がないとダメでしょう？病気がしたらできないでしょう？ エナジー、バイタリティー、活力。というふうに「自分をいつでも病気にならないように活力を持ってください！」という条件があるからこそ「努力」とか「精進」ができます。このエネルギーの方向、つまり「自分の体に力があるかな！」と、心で観る。遠くから観て「あるかな！」と。内から、外から、三つ同時に観るときに「私は元気がある」とか、そのこと。ここで病気してしまうのですね。病気は結局アビッチャー（無明）から来るものだから、何かが過去の因縁で持っているか、現代において「常識ではない」と思いながらも、常識の中に入ってしまうこと。それは本人の決定だから何とも言えません。結局、私が歩いていたら、隕石に当たって、突然に死んでしまうとか。

4番目の「ラブチャー」(rapture)、「喜び」。これが「ムディター」(喜)。これが一番、近い状態を感じるのは、今の世では交響曲第9番、ベートーヴェンね。歓喜。音楽。深く感じたとき、涙が出るくらいという、そこに非常に近いのだけれど、もう一歩、奥義があるわけなのです。なぜかといったら、ここが現在、非常に破壊されてしまっていて誤解されている。「エクスタシー」と「オーガニズム」は違うわけです。非常に皆さんが混同してしまっていて、「エクスタシー」というのは、信仰による崇高なエリアに入ってしまう。結局、才市さんが「慚愧、歓喜」。この世界に踏み込んでしまう。これは宗教上の非常に難しいところで、「ムディター」の本当の世界に入ってしまうには、ジョーゼフ・キャンベルという、アメリカの初代人類学博物館の学長が、彼はハーバード大学の教授で、またキリスト教、カトリックの神父でも一時あった。そのときの論争を聞いたときには「ここが絶妙なところである！」と。4番目の「エクスタシー」を通過しない限り、5番目のウッペカー（捨、静寂）に到達できないわけです。「捨」は「捨てる」ではないのです。これは丁度、心が平安、大平安という状態に入ってくる。だから禅定に入ったときには、一切ぶれがなくなるわけ。だから「ラブチャー」「喜び」。

それから、その次にエネルギーがあるからね、「坐っていても楽々と坐れる」と、「軽安」。トランキリティ (Tranquility)、朝の起きたときスーッと気持ちいいでしょ？ そういう状態であること。これは坐禅やってチェックしてもよいのだけれど、普段ずーっと自分がどういう状態にあるかということ、精神状態を測るバロメーターというか、そういうことなのです。

¹ 七覚・七覚支・七菩提分ともいう。さとりを得るために必要な七種の修行項目。念覚支、択法（ちやくほう）覚支、精進覚支、喜覚支、軽安（きょうあん）覚支、定覚支、捨覚支。

6 番目（「定」）は「よく集中できて坐れるかどうか」。さっき言ったように、私が仕事のあまり疲れてしまって、よく尺度を間違えてしまって材料を台無しにすると。やはり「定がない」ということで「集中力がない」ということになります。

7 番目のエクアニミティ (equanimity)。「丁度バランスが取れている」と。「バランスが取れた」「ブレがない」ということ。この七つが心を測る状態で、ここさえしっかりとバランスをとれば、どんどんどんどん心が成長します。私の体験上ずーっと照らし合わせたら、お経の、お釈迦様の言った「七覚支」ということが、やっぱり「あーそうなっているな！」ということですね、心持ち。

自分に一番しっくりくる坐り方

次は、では「どういうふうにも実際、坐ったらよいのですか」となりますね。結跏でもよいし、半跏でもよいし、私の南方禪でもよいし、「ただ気楽に無理なく坐れば一番よい」です。それは「一番あなた方にとって、一番しっくりくる方法」でやってください。私は、若いときは半跏とか結跏でやったけれど、結跏でずっと無理してやると、体が震えてくるのですね。「あ、これは私には合わない」。それで半跏にしたわけ。半跏にしたら2時間でも、ゆっくり坐れる。でも、2時間以上たったら何かうまくいかないのですよ。私の弟子は結跏で8時間坐ってしまう。毎日練習しているから。私は在家だったからできなかったのだけれど、でも、こうしてパオでそういうすごい行者と一緒に坐っていたけれども、「やっぱりこれ（半跏）には無理があるな」と。坐り方に心が行ってしまって、知らず知らずのうちに。結局、軽快な「軽安」という5番目のトランキリティ (Tranquility) というのが崩れてしまいますね、何かプレッシャーが入って。

私の場合にはこういう（南伝）風（あぐら坐）にやったら、2時間でも3時間でも5時間でも坐れたわけなのです。それで時々戻して、半跏にしたらやっぱり、ちょっとした触っただけでも、3時間くらいなったらね、何か針のように感じてしまうのですね。「あ、これダメだ」と、私はやめました。それは人によりますからね。ただし、こっち（半跏）の方は非常によいのですね。これで30分やって「スッ！」とやったら、血が「スッ！」と引くからね。運動しなくても運動したように、体に血が回るものだから、毒が出るのか、私はあんまりこれといった運動をしなかったのです。今でも屋根に上がったり、建築やったり、土木作業やったり、何か生まれて初めて、これだけ働いたことがないようにできたわけなのです。本当にこれといった病気も一つもしなかったわけなのです。

だから、それはこっち（半跏）の方かなと思っています。だから、それはそれで非常に有意義で、特に若いときから何の趣味もなく、ただ坐っていたもので、なんか「なんで坐るのだろう？」と。そうしたら気が付いて50代になったら皆、老けてしまうのですね。それに加えて薬づけになるのですね。私の場合は、たぶんこれは「坐ったおかげではないかな」と思っています。というふうに、結果は20年、30年後で出てくるから、そのときは本当にバカみたいになんにもしないで、「なんでこんなことしているのだろう」と思ったけれど、この年になったら「よかったな！」というのが、私の体験ですよ。

皆さんはまた別だから分かりませんが。それで、実際どの友人を見ても皆、薬をもらっている、皆、病院に行っている。これは社会にくるくるお金が回って、いいことかも分からないけれど（笑）！でも、私には時間がないものだから、そのように病院通いができないのです。冬が来る前に、なんとか新築工事をある程度仕上げないといけないでしょ？だから、病気する時間なんてないのですよ。病院に行く時間も倒れる時間もない（笑）。その前に過去10年間、チベットに行ったり、ヒマラヤに行ったり、アンデスに行ったり。全部それがつながっているわけ。だから、倒れる時間も病気する時間も、過去10年間なかったわけ。できないわけ。いったん病気したら全部おじゃんになってしまうから。というふうに、何か心が決定してしまうみたいな感じですね、私の場合は。ただし「あーもう疲れた！寝る！」というときは、なんぼでも寝てしまうからね。グーグーと何にもしないでいます。というふうに、結局「自分の一番しっくり来る坐り方」を探してください。



水源禅師の建設中のクティ

心と体を一体化させる

さっき言った極意は、アナパナサティ（入出息念）の場合は、全てアナパナサティですが、ただそのバリエーションがあります。「ただ目をつぶって吸って吐く」と。このとき心。「心で吸って吐く」。これどういうことかと。「心で観る」ということ、ここ（頭）ではなく。食べるでしょ！頭で考えて「美味しい」と思わないでしょ。直接もう心で感じているでしょ！そのこと。エビとか車エビとか、ステーキとか、考えて「これはこれでこう」ではなく、食べて「あー美味しい！」と。心で観ているわけ、このこと。だからこういう日常、食べる、心で食べているわけ。頭ではないわけ。そこで「息を吸い、息を吐いてください」。なぜかといったら「この体、物質と心が一体になる」というところが極意なわけなのです。

こういう方向で今度はたくさんのサブジェクト（教科）があります、行法によって。禅の場合は、まず数息観といって、考えさせないために「腹が出た、腹が引っ込む」。マハシの場合は「ライジング、フォーリング」でゆっくり「足上げて、下ろす」とか、「ラベリング」とか、その後で30分坐らせる、その繰り返し。ゆっくり、ゆっくり、つまり、心と体を一体化して観ていく。つまり「心と体が非常に一体化すること」が大切なわけです。

心だけでは生きていけないわけです、体がなければ。体だけでも生きていけないわけです。心がなければ死んでしまう。そうでなければ、植物状態といって病院の床で何年も意識なしに眠るだけになります。二つ一緒になって初めて、この私たちの体を通して「宇宙の叡智」が入ってくる。「大宇宙の叡智」。私たちの体には宇宙の全ての物質が入っている。金、銀、ラディエーション（核物質）、そういうものも全て入っている。セシウムからシリカから水から、すべて微量であるけれど、これ宇宙で創られたもの全てです。食べることによって宇宙の味を私たちは味わっている。絶妙な大世界。なぜこれが発生したかと言ったら、

意識と無意識の間

今度、空法の世界に入っていきますね。これは現代科学では無理。なぜかといったら、現代医学では、意識の（ある）ときは測定できます。無意識のときは測定できます。この中間の意識と無意識の間、これを測定する機械がないわけです。無意識のときは注射を打って、麻酔にかけて、ピン、ピン、ピンと測定できるでしょ。意識のときは質問とかして検査できるでしょ？この中間のところが仏教でも非常に大切。だから「夢を観たら書き留めてください！」と。意識と無意識、こここの中間で瞑想していくわけ。その後でジャーナ（禅定）の世界に入っていきます。そういうことが概要です。非常に難しいようですけども、そこをやれば、そんなに難しいことではないのです。

ただ「頭で考えたらこれは無理！！！」アビダンマの解説を読んだら、今見たら、もう私の頭が「嫌だ」だって。この一瞬にして七つのジャバナ（javana）、一つのジャバナには10兆くらいのパルスが発生するわけなのです。これ一つ解析しなければいけないのだけれども、これを文字でやらせた場合にはおかしくなります。ただ概要で簡単なことはいいですよ。これもまた非常に将来、重要になりますけれども、そこまで到達する人、お坊さんの中で1000

人に1人くらいですから。まずはもっと簡単な手法で、どんどんどんどん心、さっき言った才市（さいち）さん¹ですか、誰にも教わらなくてもブラフマ・ビハーラ（brahmavihāra：四梵住）の第三、ムディター（喜）の世界を完成してしまった。ということをも明快に解析できて、また、そういう手法も正しいのですよ！ということも言えます。

諸宗教の原点を検証する

だから、「南伝、北伝」とか分ける必要は一つもなく、すべてお釈迦さまから出ているから、その間に誤解がたくさん発生しています。特に今、誤解が発生しているのはアメリカンブツティズム（米国佛教理論宗教）が世界にいろんなことを言い始めて、混乱し始めています。特に、私が南伝仏教やっているときは、ミャンマーの人とかスリランカの人とか、あっちの人は「あんまり北伝・南伝とか全く関係なく勉強したい」と言うのだけれども、結局、外国から来た人がケンカさせるみたいに、敵意を感じて「あれはダメ」とか「これはよい」とか言っているようです。

実は、この人たちはイスラーム、クリスチャン、カトリシズム、ユダヤの本伝も全く分からずに言っているわけです。だから非常に危険です。西洋の思想も、今はユダヤ教の原点の非常に大切なところ²が外されて教えているから、大変な混乱を起こしています。歴史的にも、先ほど言ったように、つい最近、発見された最も古いイスラームの教典を見たら書き換えられているわけです。特に、その中ではサタニックバース「悪魔の詩」という言葉が入っているわけ。これはムハンマドがメッカに行ったとき、メッカではその前は女の女神を崇めたわけなのです。三女神、それは神の娘なのです。そういうことで崇めたわけ。そして、それにひれ伏して拝んだわけなのです。

ところが、これが大問題になった。「なぜプロフェット（預言者）はそういうふうに頭を下げたのか」と。セント・ガブリエル（St. Gabriel）が来て「お前なんでそんなことをしたのか？」と。そうしたら、彼が言うには「悪魔が私の舌に入って言わせた」と。これが有名なサタニックバースで、これを書いたサルマン・ラシュディ（イギリス作家）学者の首に懸賞金を出したので、この方はイギリスで雲隠れしています。今この文書は消されています。サルマン・ラシュディさんが『The Satanic Verses』（『悪魔の詩』）という本を書いたときには、世界的に大変な大問題なことになって、この人に賞金をかけて殺そうと、今でもそうらしいです。私はイスラームの方々が拝むのが悪い、と言っているのではありません。そういうふうに教え込まれて信じ込んでしまったと。立派な方をたくさん正しく見えています。

でも、こういうふうにインベスティゲーション（検証する）。「何が正しいか、何が間違っているか？」ということをも自分で解析していかなければ、波に押されて、今のアフガニスタン、イラク、ペルシャ。大問題が発生しているでしょ？ 身内同士で殺し合っているでしょ？ 何がなんだか分からなくて、アフリカにしろ、結局、根底が本当のことを言わないがゆえに、

¹ 石見の才市（1850-1932）：浄土真宗の妙好人の一人。石見国大浜村字小浜（島根県大田市温泉津町小浜）出身。他力の信心を詠んだ念仏詩を8000首以上、残している。

² 5頁13-14行目参照。

因果によって大混乱が起こっているわけです。だから、つまるところは「社会は社会の風！」これは防げません。この地球が爆発するときには、そのときには「四梵住（四梵行）」「四無量心」という経典、つまり「ブラフマ・ビハーラ」(brahmavihāra) をやってください！「メッタの本当の世界をやれば問題ない！」と、ちゃんとお釈迦様がおっしゃっております。そういうことなのですけれども、もっと具体的に瞑想の仕方、何か聞きたければ質問してください、やり方とか。今、大体、軽く説明しましたけど。またはやっている内に何か出てきたら、また質問してください！

無明なる現代の経済システム

経済システム、まあこの原因は 1761 年から計画的に始まっているので、新しい方式を今、つくろうとしているのか？ だから結局、政治家としては、日本の国体とか、東洋のシステムを守るにはやっぱり 5000 年の知識が必要だと思います。あまりにも東洋は遅い。

たとえば、『ニップール・タブレット』（『Nippur tablet』）、発音は「ニッポーン」に聞こえる『ニップール・タブレット』、これは 1950 年あたりに、ペルシャで発見された粘土に昔の文献を刻んでいるものが、ペルシャで発見された。これが大体 5000 年前の文献なのですね。この王様が「私は過去 5000 年の文献すべて読める」と言う。その王様の言葉を書いたもので、私はカナダで数学を勉強したときに一番びっくりしたのは「ライブニッツ・ジャーマン・カリキュラス」（微積分）とケンブリッジ数学の「サー・アイザック・ニュートン・システム」。この二つが世界最高峰の叡智だと思ったけれど、なんと『ニップール・タブレット』にはカリキュラス（微積分）がちゃんとあるのです。とてもショック受けました。数学をやっていたからすぐ分かったのです。

だから結局、常識世界ではそれでもいいのかもわからないのですけれどもね、結果的には今、日本では土下座文明が、それも莫大なお金を投げ込んで、何兆円というお金を捨てて。それで「すみません」と言うけど、一般の人が払って、これでよいのですかね？と思って。お釈迦様は「アビッチャー（無明）、これはやめてください！」と言っています。なぜかといえば「このまま進めば宇宙が破壊しても、宇宙と宇宙の中間に絶対、破壊できない空間があってそこに落ち込みます」と。そこは「無間地獄（阿鼻地獄）」というふうに、私たちに言われているけども、「お釈迦様はこういう世界があります！否定したらいけません！」と。はっきりと。結局さっき言ったように「一切顛倒」「無明」。これは「社会がこうだ」とか「こうである！」と、一切疑問なしにそういうふうに生きた場合には、そこに行ってしまう。頭と体を使ったりする方々、お百姓さんとかは、私たちに食料つくって与えてくれる方なので、聖者の生き方をしておられるので、だから無明は発生しにくいですよ。実際の世界に生きているから。ただ頭、頭で生きて 1000 兆円、2000 兆円、人の金をボンボン投げて、どうなるのでしょうかね！

もっとすごいことは、ブッシュ・アドミネレーション（米国行政府）のときの初期ね。そのときにキャサリン・オースティン・フィッツという方ですね。アシスタント・セクレタ

リー・オブ・ハウジングとって、あのときアメリカで大変なことが起こったでしょ？その前兆の前のときに、一体どこにお金が流れていくか調べ始めたの。今、ファイナンシャル・アドバイザーでアメリカにいます。私は日本の政治家が知っているのか知っていないのか、分からないのですが、実際は、アメリカでは、こういうことは当然、皆知っているわけです。文献がすぐ手に入るし、経済新聞を読めば。こういう人が堂々と言うわけです。そのときに、ブッシュ・アドミネレーションは、一つの宇宙船に 400 兆円の宇宙飛行船を造っている、宇宙に飛んでいく宇宙船。だから、NASA とかそういうのは人の目をごまかすものなのですよ。

こういうトップ級の人と言うのだけれど、日本の方はどういう英語が読めるのか読めないのか？ 結局、私みたいな一介の人間にも古典から宗教からすべてチェックできるのに。日本国土から東洋を潰（つぶ）す気なのか？ 勉強しているのか？ 受験勉強でトップ級の人たちが一体、何をやっているのか分からないです。だから、この方が言うには「全世界の人々は全く働く必要ない」と。「あり余るほどの金があります」と。「税金も取る必要ない！」と。

特に TPP について政治で騒いでいるけれども、完全な茶番で、29 のレギュレーション（規制）があるけど、実際の貿易関係の項目は、たった 5 項目。24 は全く関係なく「いかに社会をコントロールするか」の条約にサインするだけ。国会議員もその文献は読めないわけ。ただ、経団連のトップは全部、読めるわけ。こういうことは、どんどんあっちでは皆分かっているわけ。では一体、何のために本を読んで、小説いいですよ、心浄化させて、ロマンス大好きです！ 昔のチャンチャンバラバラ大好き！（笑）ところが、実際、今現在あなた方の未来にかかわることでもあるしね！ その文献はどんどん出ているのに、日本のメディアでは、たった一人の評論家も言わない？ 一体これはどうしたことなのか？

宗教の方は訳の分からないことばかりどんどん言っていますね。私の場合はニミッタ（丹光、禅定）で、ずーっと坐禅やっているから、日本が相当おかしい状況まできていることが、理解しやすいみたいです。さっき言ったように 1761 年からの計画で、その計画どおりにやっているのだけれど、すべて畏にはまって。私には一体これがなんで読み切れないのか、さっぱり分からないのです。

質疑応答

常識は本当の知識ではない

【参加者】

(その計画は) 誰が？

【水源師】

やっぱりヨーロッパの方ですね。「ディバイド・アンド・コンカー」(divide and conquer : 分割統治〈分裂させて征服せよ〉)。必ず戦争させる。1871年のアルバート・パイク。これはまあ偽物だと言うのだけれども、彼のレターの文献の中に「将来、必ずやユダヤとイスラームを戦いさせて共倒れにする！」と。「その前にパレスチナにイスラエル国家をつくる」。シナリオどおりに動いているわけですね。ただ日本では、こういうことを言えば「異常者」と言われる。でも実際はそれが進行している。

ということは、やはり本当に日本の政治家は「日本を愛して救う気があるのか？」という気がする。まあ、やっと日本が今になって「原爆は使わない」という国際的条項にサインしたわけですね。いかに日本国民を馬鹿にしているのでしょうか！ 福島の問題も私は「これダメだよ！」と、「絶対直らないよ！」と。直るわけない！もう穴があいて地下に入ってしまったから、どんどん飛び散っている。アメリカの専門家によれば「処理するのに50兆円のお金が必要だ」と言われています。そうではなくても「消費税を上げる」とか、一体どうなっているのか！と。

カナダだから関係なくても、あまりのことにせめて瞑想してね、どんなことがあっても『メッタ・スッタ』(『慈経』)を唱えながら、瞑想して慈悲の心をずーっとやっていたら間違いありません。地球自体がおかしくなっているしね。やっぱり私は日本に生まれたから、日本に対してご恩がありますよ。「私だけがいい」と言って阿弥陀の国で寝たら、問題があります。せめてこういう本当の心の喜びに接したら、自然にそういう素晴らしい心のスペース出会えます。皆さんが大好きな、恋愛の『ロミオとジュリエット』、そうではない。それ以上のすごい「生きとし生けるもの全てに私の愛をあげたい」というそういう「歓喜の大世界」を皆さん持って生きているのだけれど、気付かぬに素通りするのですね。それだけをつかめば、もう大丈夫。

メッタ(慈)、カルナー(悲)、ムディター(喜)、ウペッカー(捨)。その最初の段階「Mettaメッタ(愛)だけでも大丈夫」というメッセージが、ジーザス(イエス様)が2000年前に「愛」(metta)の教えをチベット、インドより持ってきたみたいです。私はどう見ても、イエス様がブラフマ・ビハーラ(brahmavihāra:四梵住)から愛を完成して教えているように見えます。それまでは「歯には歯を！目には目を！」と「相手を許さない」という風土に、このような教えを広めたと思います。今のイスラームはそういう強烈な過去の流れを汲(く)んでいるようです。三女神を封鎖してね、男だけのmonotheism(一神教)にした、それで非常に野蛮なことが起こったと思います。タリバンに撃たれた女学生が「勉強する機会を与えてください」

と、世界で演説しましたが、こういう人をタリバンは「帰ってきたら殺す！」と。これでは人類は救われない。そのアフガニスタンには1000年前、ガンダーラに仏教の世界最大の大学があったのですが、そういう世界最高峰の文明を持ったところが、ここまで落ち込んでしまう。もし「誰かさんがやってくれる」と、自分で勉強しなかった場合は、こうなってしまう。

幸い、このなぜかすごい文献が日本にみんな集まってきている。最後に集まったところが「正倉院」とかいわれています、そういうことを比べても、あとは朝鮮半島でも戦乱が起って全部、焼けたり、中国でも大変でしょ？ だから、なんだかんだ言っても、こういうふうに人類に対して、こういう法（真理）はやっぱここでもって開花させて人類に返さなければ失礼だと、私は思うのだけれども。なんだか見たら「商売、金、金」。「美味しいものを食べる」のが、人生の最大の楽しみ！ くるくるくるくる激しく動いていますね。政治家たちは何を国民に押し付けようとしているのか？ なんでこれ以上、税金をとって苦しめるのか？ キャサリン・オースティン・フィッツという人は「もうあり余るほどの金がある」と。「この宇宙船に1機400兆円の金をつぎ込んでいる」と（笑）。

あの有名なホピ・インディアンというのがあって、「ホピの予言」というのがあります。そこに明快に書かれているのですが、「人類はこれから宇宙に向かって、行けども、行けどもただ探せるのは、ただ人間の住めない火山性の荒れ地だけ」。それが150年前かな？ もっと前に書かれて。その前に「これから鉄の道路がいっぱいできる」と。というふうに、もうちゃんと書かれているわけ、そういうことが。

私が言いたいのは「常識、常識」と言っているのだけれど、「これが本当の知識なのか？」「皆つくり上げた劇場で言い合って、楽しんでいるのか！」、ツケは大きくなるというわけ。その予言が今、実現しているのです。アシスタント・セクレタリーとなったら、やっぱりアメリカでも最高峰なのです、アメリカでも。その人たちが言うわけです。それを評論家が誰もキャッチして日本国民に教えない。

つい最近のブッシュ・アドミネレーション（米国行政府）の第2期にペンタゴン（米国国防総省）に勤めた人がEリング（E-Ring division）といいますね。この人たちはアメリカ経済をどうするか、どういう秘密を守るかと。そのときに、もはや石油がなくなったら、人口石油をつくれると。これは軍の秘密として隠そうか？ 世界制覇ね！ ところが、ある若い、これ全部、将軍の会議ね、スリースター、ツースター、ワンスター、トップ級。それで若い将校が「今まで私たちは隠そうと思ったけれども、すべて暴かれています！ 隠しきれない。やはり民間に払い下げた方がよいのではないか！」と言ったわけですね。それでバイロン・キングという、そこのアドバイザーが「そのとおり！」と。今までアメリカで隠しきれたことはたった二つ。「エリア51の宇宙船と宇宙人のこと」と「フォート・ノックス（世界最大の金保有貯蔵庫、米国国防総省の管理）には金塊が一つもない！」ということ。そうしたら、スリースターの将軍が「本当にフォート・ノックスに金がないの？」と。エリア51は皆、知っている。

ところが、これを日本で言えば「大馬鹿者」になるのですね。この格差が激しい！ 宗教人としては、ここまで言って壁を取ってしまわないと、一切のそういう（壁を）。それで、その

「無」の世界に入っていくと。これでは「無我、無我」と言っても無理。雑念があんまり入ってきて。さっき言った才市さん¹ですか、あの人は純粹にやっていたものだから、自動的にアナパナサティ（入出息念）やっていたわけ。自動的にアナパナサティ、その文献を読んでみたら。私も何か分からないけれど、ずーっとやっていったら、すーっと入っていくのですよね。これは全宇宙には仏が満ち満ちています、はっきり言って。だから、実はそこにちゃんとつながったときには、なんの心配もないわけ。ただ「いかにして人のために尽くすか」ということは、自分を磨いていくだけです！ どんどん！ 次の世でも必ずOK！

ただ、悪いのですが、今、日本のトップ級の人たちは、ありとあらゆる権力を使ってやっているのだけれども、朝から晩まで働いて！ 私も「ご苦労さん」と言いたいだけれども、本当の知識を持っていないがために、くるくるくるくる回って、会議、会議。会議で、誰の責任かも分からないし（笑）。後で、皆で謝って、ご破算に願ひまして！ またくるくるくるくるこの繰り返しというシアター、劇場なわけなのです。これはいずれにせよ、日本はよいですよ。アメリカなど惨憺たることになっているのですよ。本当に家4軒に1軒の割合で失ってね。今アメリカではね、子どもの半分は、ちょっと数字が高いかもしれませんが、政府のフードスタンプ（食料券）を頂いているようです。政府から食料をもらわなければ、生きていけないというのだから。

日本はまだまだ、なんだかんだと言ってもよいでしょ。それだけ安定しているわけ、皆さんまじめだから。だけど、ちょっと度が過ぎるのではないかと、私は思う。「皆、楽に生きることができるのに、なんで首締め合って生きなければいけないのか！？」と思います。この楽に生きた力で周辺、近隣国、世界に対してもっと平和貢献できるし、もっと文化が発達して楽しく生きることができるのに！ 日本はよいですよ。すぐそこら辺に食堂があって、いろんなものが食べられるけれど、カナダとかアメリカはマクドナルド！ ケンタッキー！ スターバックス（笑）。日本はラーメンもいっぱい種類あるけれど、あっちでは「サッポロ一番」とか！ そんなもの。だからそこで、そんなにしょげないでよいところもたくさんあります！ 日本には。だから、応援歌ではないけれども、皆さんがんばって、こういうふうな瞑想をどんどんしてもらって、どんどんメッタ（慈悲）の力が出てくれば、自分もよくなるし、周りもよくなるし、何かよいことが発生すると思います。

皆、今は「世界がおしまいだ！おしまいだ！」なんて言っているけれど、さっき言ったように、まだまだ先のこと。お釈迦様が言ったのは、今、アンドロメダの銀河と、この銀河がぶつかり合うのは400万年先のこと、そのことを言っているのではないかな。ダーッと近づいているの。そのとき、くるくるくるくる回ったとき、三つも四つも太陽がくるくるなるでしょうね。そういう実態が今から20万年前に発生したみたい、その「シリウス星（Sirius）ABC」という三つの星のことが、アフリカのドゴンという部族が1851年代にフランスのアンソロポロジスト（人類学者）の人が、その伝説の話とか書き留めたら「私たちはシリウスBから来た」と。星が爆発する前に飛んできた。「そこにシリウスABCがある」と。Bが発見されたのは1900年代の初期のパロマ天文台で実際にあると。Cは無いからこれは嘘だろうと

¹ 石見の才市（1850-1932）：浄土真宗の妙好人の一人。石見国大浜村字小浜（島根県大田市温泉津町小浜）出身。他力の信心を詠んだ念仏詩を8000首以上、残している。

思ったら、衛星天体望遠鏡のハッブル宇宙望遠鏡で1990年代に発見されて、それからもうびっくりして。分かるわけないのに、なぜこの人たちは分かっているのか？ お釈迦様のお話からすれば「10兆の宇宙体があって世界がある」と。なんでもないことなの。この地球が爆発したって、すぐ皆、他の世界に行ってしまう。その条件は「メッタ（慈悲）があれば、心配ない」ということ。

超古代史

【参加者】

なぜ、そのアフリカの部族は、それだけの文明を地球に来て失ってしまったのでしょうか？ 20万年の間に劣化していったのか？ 宇宙船で来たのでしょうか？

【水源師】

そうでしょうね。ただ、そのときにどうもその生命体はこの地球におるみたい。彼らは人間ではなく、体がレプティリアンといって水の中に住む生命体みたい。この地球には、オーシャン・大海の知識は1%から5%もないはず。この海の下は全く分からないのです。「アトランティスは無い」という伝説だったけれども、日本の学者が大西洋の深海を調べに行ったとき、潜水艦で行ったときに、そのときに約900mの海岸の下に巨大な花崗岩を見つけたわけです。大きな巨大な崖になって。その花崗岩というのは、火山が爆発して地上でできないわけ。海の中ではできないわけ。ということは「アトランティスが否定できない」ということになった。この地球には「14の宇宙人の文明が、ここに行ったり来たり、行ったり来たり」と言っているよ！それはどこまで本当か分からない。

特に一番、不思議なのはグリーンランド。グリーンランドが大体3000mかな。氷に覆われて、一体これがどうして発生したか、いまだに分からないわけ。その下には湖があって、プレッシャーでね、そこにバクテリアとか生命体があるわけです。それで、ゾロアスターの「アフラ・マズダー」の文献を調べてみたら、「14000年あたりに宇宙の彼方から、この地球に非常に冷たい風が送られて、氷がたくさんできるから、あなたたちは南の方に逃げなさい」と言う文献があるわけ。今でも謎なわけ、なんでグリーンランドにそれだけ氷があるか？ 冷たいところに。南極のあるところに行ったら、火星と一緒に一滴の水もないわけ、寒すぎて。

そういうふうに『ラーマーヤナ』の文献を読んでみたら「この地球で宇宙戦争をやった」と。「空中に三つの空を飛ぶ都市があって、お互いに戦い合った」と！ そのときに一瞬にして光のようなものが出て、丁度、原爆が発生したみたいなことが書かれているわけ。そのときにはもう私がエローラ・アジャンタの洞窟に行ったとき、1000年かけて造られた石窟寺院。最後の方のシバ神か何か、手に完全にロケットを持っていました。ロケット！（笑）ということ、あまり紹介されていないでしょ？ 私は幸いこの足でずーと見ているから、文献だけでは納得できないわけ。実際にいろんなところ。

そういう遠い昔には何か起こって、『ニップール・タブレット』（『Nippur tablet』）見たら、プラトンが「ハーモニックナンバー」と言っていて「1296万」という数字、これでミュージック

(音楽) ができているわけ、すべて。このナンバーは『ニップール・タブレット』に書かれているわけ。60×60×60×60 がこのナンバーなわけ。その時代の1年は360日だったらしい、そのときは。だから360度、スメリア (シュメール) カルチャー。

もうこの私たちが現実そういう歴史的なことと今、私たちが教えられていることは、非常な格差があるわけです。さっき私が言ったように「 $E=mc^2$ 」が、この実験を実際にやって無限大のエネルギーを取ろうとしたのです、ロスアラモス国立研究所という原爆を最初に製造したところのアメリカで。絶対の自信があったわけですね。どういうふうにして取り出すかと言ったら、レーザービームあるでしょ。あれで水素を押し込むわけです。だから、そこにエネルギーをやれば、水素爆弾みたいに無限のエネルギーが取れると。ところが、入れたエネルギーと出てくるエネルギーが同じで、それ以上出ないわけ。それで「物質は光の2乗のエネルギーがあるということが違う」ということが分かった。

この論争は、デカルトという大哲学者である科学者が、力は質量×ベロシティー (物質の速度) によると。これが実際は今のミサイルのロケットで造っているわけ。ライブニッツは、力は質量×ベロシティーの2乗になっているわけ。それはアインシュタインの方程式になって、「 $E=mc^2$ 」というふうに配列したのではないかと。だから、数年前に私は「私の体験ではアインシュタインのあれは100%ではない」¹と。

というふうに、瞑想すれば体で分かってしまうわけ。この実験には何兆円というお金を使ったはずです。誰が払うかということになるのでしょうか？ ツケでやっているわけです、お金を刷りまくる。こういうふうに失敗してしまうものだから、次から次へ。もう財政難。というふうなデータが、アメリカのホームデータで分かるわけです。それは隠していない。一般の経済新聞から読み取れる。政治的な方からNewsは出てこない。だから、私はいつも経済的な方から追跡して分かってしまう。

だから、経済界が政治界よりも先取りしてしまうわけですね、そういうインフォメーション (情報) をね。ところが、国民は、そういう政治家たちは何か能力があって守ってくれると思うから、政治家なのでしょ？ ところが、情報が入っていないようです。この人たちは私たちよりうんと頭もよいし、力もあるのに、情報がないがために、私はこういうふうになっているのだと思います。時間がないでしょうね。もう会議、会議で朝から晩まで、もう無駄なことしているものだから！ 勉強する時間がないから。それで、今の現状でいろんなことが次から次と起こって、その後でまた対策会議の後手、後手だからね。

一番よいのは、あなた方みたいに瞑想の時間があって、心が進化していけば、こういうふうな台風の目の中から外れて、次の世はうまくいくと思います。びっくりしたような話だけれど、これはあちらではほとんどトップ級は知っている。新聞に出ているから。ただ発言した人たちが、アメリカ政府のトップ級の人が発言しているということで、「私の情報が完全にでたらめだ！」というわけではないですよ。

¹ 『水源禅師法話集』第7巻6頁本文16行目以降、33頁7行目以降、35頁21行目以降参照。

アメリカの実態

【参加者】

もしそうだとしたら、なぜアメリカで暴動までいくか分からないけれども、今の政治家がやっていることに対する反対が起きないのですか？

【水源師】

だから、アメリカでは皆、読めるわけです。アメリカでは今ね、イラク戦争でやった弾薬の20年分の弾薬をアメリカのホームランドセキュリティ（アメリカ合衆国国土安全保障省）というところが、ちゃんと用意してあるのです。イラク戦争の20年分ですよ。ホームランドセキュリティというのは、アメリカの国を守る人が、どこの国がアメリカに戦って行って、イラク戦争の20年分の弾薬を買う必要があるのか？これがBBC（英国放送協会）ニュース。このニュースは、もうずーっと半年前から出ていたけれども、まあそういうインフォメーション（情報）は、まあまあ、こういうふうなBBCニュースに出始めたら、やっぱり「ああそうなのか！」と。

結局「FEMA（フィーマ）」（アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁）とって、アメリカ国民を押さえ付ける多めの600のそういう収容所をつくってあるらしい。さっきいった回答。暴動起きないように。暴動起きるか、アメリカでは拳銃だからね。アメリカ・イアハート（貨物弾薬補給艦）の弾薬を全部、買い占めてしまった。そのホームランドセキュリティが、一般の人が買えないように。弾薬がないと戦えないでしょ？

【参加者】

「FEMA」って災害のときに人を収容するための？

【水源師】

そうそう、（本当は）そうではなくて、あれは収容所（笑）。だから、この前のアメリカでのすごい台風があったときにも全然、作動しないし。この前のボストン・ボンバー事件（ボストンマラソン爆弾テロ事件）発生するときも、すごい軍事で全部たたき出すみたいにやったでしょ？19歳の少年を、たった一人のために戦車部隊から戦闘部隊2万人。結局、アメリカは「NSA（ナショナル・セキュリティー・エージェンシー）」（アメリカ国家安全保障局）が、全世界の盗聴ができるわけ。（全世界の盗聴が）できるのに「地元のこの少年が何をやるか分からない」というのがおかしい。このお兄さんはFBI（連邦捜査局）とコンタクトしている。だからメディアと、これアメリカでメディアに出ていますよ。だけど、メジャーメディアには出ない。というふうに、アメリカは大変な状況になっています。アメリカの経済は、私が数年前から何回も言った¹ように「カンフル剤を打っても、もう死んで起き上がれない」。

¹『水源禅師法話集』2巻3・15・35頁、3巻14-15・36頁、第4-6巻、7巻30頁等参照。

宗教者の使命

「経済は心と心」なのです。信用を落してしまったら絶対、経済は続かない。私は大阪にいたからね、大阪商人は30年いないと信用してもらえない、すべて信用取引だから。というふうに、私が思うには、宗教家はここまでちゃんと人の命とか経済とか全部、指導してあげるべきなのです。お釈迦様は何一つ持たないのにね！ タイのお坊さんが個人ジェット機、50台の高級車とか。これは仏教だけではなく、今日の新聞で、ドイツのカトリックの若いお坊さんが41億円の豪邸をつくったわけ（笑）。旅行はすべてファーストクラス。

ゴエンカさんが数年前から「私が死んだら絶対に銅像をつくるな！」と。「銅像をつくったら皆、私の銅像の前で踊るだろう！」と。わっしょい！わっしょい！（笑）宗教家はそうであるべきだと思います。

昔から免罪符とか「お金をたくさんやれば、天国に行けるし、地獄に行かない」と。何か不安があるのでしょうか。だから、お釈迦様は「その必要ない」と。悪いことしないで生きていけば心に憂いがないですから。そのことをさっき言った¹ように、ユダヤ教の奥伝のこういう本は、一般の人は見られない、私はたまたまそういうものを贈られたけれど。「人間は悪しきこと、善きことを知る生き物なり。アダムよ、永遠の命を与える」と。結局「慈悲」なわけです。これを解決したときに、あなたはエデンの園に帰れるというわけ。これは、一切の「仏」はこう言っているわけ。すべての仏は「諸悪莫作 衆善奉行」²（しよあくまくさ しゅぜんぶぎょう）、ここに尽きるわけ。「善いことをしなさい！」。

では「何が善いか？何が悪いか？」。国が「これがよい」と言って、特攻隊で死んでいった人たちはどうなりますか？朝から晩まで会社のためによいことをしていると思って死んでいって、実はこの会社が詐欺をして人から盗んでいたとしたらどうしますか？だから結局、ブッダゴーサの『清浄道論』の「善心・不善心」。心を観たときに「何が善いか、何が悪いか」が分かる。トップ級の宗教指導者は、そこまで追求する必要があると思います。それで、皆さんを善い方向に善い方向に導いていく使命があると思います。

ただそれが、いつの間にかこの時代になってしまって、昔は皆アナパナ（入出息念）やっていたみたい。中国でも日本でもどこでも。この「ニミッタ」（丹光、禪相）というのは「仏の光」で、もう遮（さえぎ）るものがないわけ。宇宙の空間。だから、もう心の奥底まで観えてしまう。私の体験で、いやー驚きました。過去も観られるとは！ワー映画みたい。それまではね、「99.9%過去があるのかな？未来があるのかな？そんな天国があるのかな？霊界（餓鬼界）があるのかな？」と思ったら、このブラフマ・ビハーラ（brahmavihāra：四梵住）で、タタタタと観ちゃう。観られない人もいるらしい。「ザーザー」と映りの悪いテレビのようにしか観えないとか。「それでOK！」と（笑）。私が事細かに説明したら皆、疑って「嘘ついているのではないか！」と（笑）。ということをお釈迦様は「ありますよ！」と。「ないと言ったら、ダメですよ！」と。

ところが、今の仏教は「魂もない、来世もない！」と西洋かぶれして。「第1ニカイア公会

¹ 5頁13-14行目参照。

² 諸々（もろもろ）の悪を作（な）すこと莫（なか）れ、衆（もろもろ）の善を奉行し。

議」¹で、そのときにコンスタンティヌスエンペラー（コンスタンティヌス1世）が「人間は一つだけ！ 地獄と天国それしかない」と（笑）決定して、そのまま来ているわけ。その前はちゃんとあるわけ。お釈迦様は「こんな教えをしてはダメですよ！」と。だから、少し前はそれでも宗教を信じたから、人殺すとかそんなことしにくかった。今そんなもの何にもない、コンピュータゲームがパッパッとゼロだから、人殺しても、どんどこんどこ人殺したり悪いことしたり。昔は人殺すとなったら、もう体が震えて「そんなことだけはしたくない！」と、なぜか分かっていたけど。つい最近でも若い女性が殺されたり。逆に女性の方が勇敢で人を助けようとしたり。ちょっとますますおかしいですよ！

無明から光明へ—本当のことを本当に見る—

結局、神がなんで男でないとダメなわけ？ 女性であってもよいわけなのです。サタニックバース（「悪魔の詩」）で、神がムハンマドに「三人の女神は一体どうしたの？ ちゃんと拝んでいるの？」と。イスラームは絶対に女神なんてないわけ。ところが、メッカではそれをまつっていたから、彼は頭下げたのだけれども、そういうことは消してしまう。ご都合が悪いから、ご都合主義で。私がそういうこと言ってみなさい！ 私の首飛んでいるよ！（笑）誰も言えない。結局、武力で押さえて、本当のことを押さえつけて、そのときはいいよ、結局、戦前の軍国主義でやっていたのです。

ところが、結果的には与謝野晶子さんが正しかったです。というふうに、なぜ男はこんなに弱いのか？ 逆に女性の方が立ち上がるのですね、タリバンにしても何にしても。だから、女神でギリシャではまつるのでしょね！ すべて（笑）アテネにしてもスパルタにしても女神だからね！ トロイも。女性讃歌ではなく「何かおかしい」ということで、結局さっき言ったように「一切顛倒」。

だから、自分でかみしめて、自分の体で自分の舌で自分の鼻で自分の目で、中、外、ずーっとそうしていけば、いろんな雑念に惑わされずに進化していくと思います。だから華は華、花をずーっと花を見て育てるとか。お茶はお茶で、ずーっとやっていたら、一心に、なんかあの世界は見えないものが見え始める、そこにずーと坐っている。昔はボール・ダンスでも皆さん踊れましたが。今はなかなか踊れないようですね！ なんかモンキーダンスばかりですね（笑）。即席で覚えて楽しいかもしれないけど、やっぱりそういうふうに昔あったものが、時間が経てば進化するのではなく、退化して退化して。勉強しないのが一番楽だし、何もしないのが一番楽だし。

結局そういう宇宙から来たドゴン。なんでそういうふうな文明が受け継がれなかったか？ 私は分からないけれども、とっても変な格好してね、衣装とか着けて。エジプトの彫刻を見たら、人間の後ろにワニがおって一体化しているの。それでボリビアに行つてね、最も古い

¹ 325年5月20日から小アジアのニコメディア南部の町ニカイア（現トルコ共和国ブルサ県イズニク）で開かれたキリスト教の歴史で最初の全教会規模の会議（公会議）。アタナシウス派とアリウス派のどちらを正当とするかの論争でアリウス派を異端と決定し、皇帝がキリスト教の教義決定に介入する嚆矢となった。

彫刻を見たら、半分人間で半分魚の彫刻があるの。というふうに、私たちの DNA は何か操作されているみたい。私たちはあまりにも DNA とか言っているけれど、結局、問題はソフトウェアだから。だから、この地球が爆発しても、すぐに宇宙の 10 兆の世界に行って、そこでまた生命体がどんどんカルマ（業）の法則で。そのときにアビッチャー（無明）持ったら、無限のそういう破壊できない空間に落ちていくから、それでお釈迦様は「一早く、このアビッチャー（無明）から光明の方に、無明から光明に行きなさい！」とは「本当のことを本当に見なさい」と言っているわけです。

私がカナダに行ったときは、今から 40 年前だけれどね。その当時ですら、平均結婚期間が 7 年。もうカナダ・アメリカはほとんど「おじいちゃん・おばあちゃんがいるとか会える」という家庭は、ほとんど消え去っています。それはもう伝説の世界になったのです。結局、今ベースがほとんどなくなってしまっているから、北米文化が当然に保っていけない。まだ日本は長い伝統の中で村とか、いろんな祭があるから、保っていけるようですね。

TPP において、政治家が間違っ、さっき説明した¹ように「650 項目の農村のなんとか」と言っ「5 項目だけは譲れない」とか、そんなことばかり言っているけれど、実態は 29 の条約のうち「米」とかそういうトレードは、たった 5 項目しかないわけ。24 項目は「国会をバイパスして国会を通さないで、勝手に金とか経済を動かせるシステムに一体化させてしまおう」というのが、TPP の仕組みみたいです。だから、その原本を日本の国会議員は誰も見ていないはず、アメリカでも見られないから。だって中、本を開いたらもう絶対ダメでしょう！「そこが問題だ」ということ。「これは民主主義ではない」ということです。

政治家・宗教家の責務

【参加者】

ルールが分かっていない条約に調印する人間なんて？ どんな契約でも規則・規約が分からなくてサインすることなんて、あり得ないのでは？

【水源師】

今、やろうとしている。TPP。

【参加者】

それは詐欺ですよ。

【水源師】

そうです（笑）。言わない。メディアも言わない。だから、私が言うのは「あんまり真剣になって、そういう人たちのことを聞いて命を投げるよりは、瞑想して本当の生き方した方がいいですよ！」と、私は言っている。この体制は崩せないからね！ ワーと来たらどうします？

¹ 13 頁 13 行目以降参照。

新幹線が止まったら、どこも行けないしね。仕方がない(笑)。だから、でもね、その中でも「だまされないように、お金はあまり使わないように、堅実に生きていくように」。

【参加者】

そんなこと言っても、銀行が倒産するかもしれませんよね？

【水源師】

そうなんですよ！ それであなたが言うように「誰も反対しないのですか？」と。結局、今、銀行でプラスチックカード（キャッシュカード）使えなかったら大変でしょ？ 日本でも。アメリカはパーなの。いつでも止まる状態。

【参加者】

今のアメリカの国債（デフォルト騒ぎ）のおとぎ話みたいなことを本当にやっていますが、なぜああいうことになるのですか？

【水源師】

1761年からのおとぎ話の社会をつくり上げたわけ。実際にはできないけれど。そういう社会で、こういう子どもみたいな心で世界制覇とか、どんどこどんどこやって。ジョン・ケリー、知っているでしょ？ アメリカでシリア戦争をやろうとしている。彼は若いときには堂々とニクソンに反対して「大声で若者のために立ち上がる！」と。今、結末はこんなことしているよ。ジョージ・ブッシュと同じ「スカル・アンド・ボーンズ (322)」のクラブでイェール大学でしたかね、同じクラブ仲間たちなの。このクラブから大統領選に2人、出るわけないでしょう。

そこの昔のクラブにお父さんが入っている娘さんが本を書いて言っているわけです。「こういうことはあり得ない！」と。そこのクラブに入った人たちは自動的に全部、支配階級になってしまうからね！ また、プリンストン大学から、すべてのアメリカの教科書が編集されて出版されるそうです。ハーバード大学からすべて。全世界がハーバード大学の下にあるそうです。「アカデミック・ピラミッド」になっていると言っています。ということ、この女性プロフェッサーが報道番組で言っていました。

というところまで、日本のアカデミックはちゃんと知らなければいけないし、評論家も知らなければいけないし。正しい方向にもっていかなければ、今度、日本の若者を無知の涙にしちゃうよ！ 東電でも本当のことを最初から言えば、私が思うに「10兆円か20兆円までいなくても処理できた」と思うのだけれども、今はもう底が割ってね、火が付いて、もう地下水に入っているみたい。福島はチェルノブイリの2400倍の規模なわけ。チェルノブイリは今でもその火が止まらないのです。一番の問題は、ナンバー4（4号機）のフューエルタンクが空中にあるでしょ？ あれが台風か地震でひっくり返ったら日本全滅。

私が2年か3年前に「1日に1メガワットの電力供給をするには1キログラムのプルトニウムをつくり出す」と。「この全日本国民を殺すのに、たった25グラムで全滅ですよ！」と

言ったでしょ¹? ということ全部、政治家が分からなければいけないと思います! 私的立場ではなく! というところでの観点から立って、法を導いていかなければいけない。ただ「規則、規則、規則」で衣着て。人を助けなければ何の意味がありますか?

また、宗教人も人を本当の意味で心が法に触れるようにもっていかなければ。実際の体験をして! だから華道もよし、茶道もよし、あれは本物だから、本当に体を使うから。ここで「宗教人が哲学だけ! これはダメ! これは最もダメ!」、これはお釈迦様が「やめなさい」と言った。(しかし) このことを「自力本願」「自力」という言葉にすり替えていると思います。(本当は)「学問仏教」を「自力」と言うわけですね。これが「他力本願」は「(他者に)すり替えられ頼る!」と、そうではなく(本当は)「絶対的に宇宙の仏を心に入れる」と! 実際は、そういうふうには私たち生かされています。

だから「三十七仏」という、この光明によって、私たちはすべて動いています。だから、宇宙には、こういう叡智をもった生命体が満ち満ちているわけ。もちろん、こういう私たちの物質ではなく、もうこの世とは関係なく救える立場にある、そういう生命体の方たちを「ニッバーナ(涅槃)にいる仏」と言っているわけですね。

だから、阿弥陀の国に往(い)けば「それでおしまい」ではないわけです。あそこは菩薩道やる道場で、すべて菩薩。そこに往(い)けば、(菩薩 52 位の修道階位が) 7 階級、上がってしまうわけ。それで 1 階級、上がるのに、菩薩道はすごい無量の努力する必要があるから、それで龍樹菩薩は「死んだら浄土へ往きます」と言ったようです²。

¹『水源禅師法話集』第 1 卷 13 頁 11 行目以降、第 3 卷 12 頁 7 行目参照。

² 世親(天親)菩薩(vasubandhu)は『浄土論』(『往生論』)に「すなはちかの仏を見たとまつれば、未証浄心の菩薩畢竟じて平等法身を証することを得て、浄心の菩薩と上地のもろもろの菩薩と畢竟じて同じく寂滅平等を得るがゆゑなり」と、浄土に生まれて阿弥陀仏を見たとまつると、初地から七地(菩薩 52 位の修道階位の 第 41 から 47 位)までの菩薩も、ついには八地(第 48 位)以上の菩薩と同じように寂滅平等を得ることができる、と示されている。さらに、『浄土論』を註釈した、曇鸞大師(476-542)の『往生論註』(『浄土論註』)には「龍樹菩薩、婆藪槃頭菩薩(世親)の輩、かしこに生ぜんと願ずるは、まさにこれがためなるべきのみ」と、龍樹菩薩や世親菩薩のような方々が阿弥陀仏の浄土に生まれたいと願われたのは、まさにただこのためである、と述べられている。



水源禪師のクティの湖にいる水鳥

水源禪師法話集 23
(2013年10月11日 忍野合宿)

2014年11月20日 発行

編集兼発行 一乗会